

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年12月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100583
法人名	医療法人甲和会
事業所名	グループホームなごみ
所在地	鹿児島市甲突町24-16 (電話) 099-224-3106
自己評価作成日	令和2年10月30日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームなごみは、福島内科医院が併設され緊急時対応がスムーズにおこなえるようにしています。場所は四季折々の様子が感じられる甲突川沿いにある施設です。散歩の時は甲突川沿いに車椅子対応のループもあり、個々の体力に合わせリハビリも兼ねて実施しています。地域の方々との関わりが大切だと考えて交流会など行い、地域の中で自立した生活が出来るように支援しています。家族、知人、友人などの面会もあり、入居者様の普段の生活や生活歴の情報から入居者様の気持ちに寄り添う支援につながるように努力しております。ユニットリーダーを中心に職員間で各入居者様の支援について情報を提供するし、職員の各自の経験も活かして支援しています。外部レクレーションは、担当者が計画を立てて、多角的に検討し、ご家族の協力も得ながら自己のないように参加者全員が外部レクレーションを楽しんでいただけるように行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市の市街地に建てられている事業所で、同じ敷地内には母体医療機関やデイサービスの関連施設があり、近隣にはスーパーをはじめ商店や企業、公園等がある地域に位置している。母体医療機関との連携も十分に図られ、24時間医療連携体制の下で定期的に訪問診療を受けることができ利用者や家族の大きな安心につながっている。

現状は感染症予防で実施できないものが多いが、従来より地域の六月灯や運動会などに出かけ、ボランティアや職場体験学習の受入れ、ボーイスカウトや小学校・児童センターと積極的に交流している。また、地域の方々の相談への対応のほか、認知症の理解促進活動にも取り組むなど地域と良好な協力関係を築いている。地域の消防署や家族・地域住民の協力を得ながら避難訓練を実施している。

利用者の思いや意見、家族の希望や意向・気持ちに寄り添うことを職員は大切に思い、ケアに具体的に反映できるように取り組んでいる。家族の面会は現状は短時間に限られているが、家族宛に利用者の写真や動画を含め必要なことはきめ細かく、丁寧に連絡している。

管理者は職員に声かけも工夫しながら日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、個別相談にも対応しながらコミュニケーションを図っている。職員同士の連携も良好で日々の申し送りや定例の会議等でもケアに関する話し合いは活発で、利用者及び家族の気持ちに十分配慮しながらより良い支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「あるがままの貴方にそっと寄り添う」の理念を念頭に、地域の中での生活を実践できるよう施設内の各所に理念を掲示し共有に努めている。	ホームの理念に沿って、地域や家族とふれあいながら利用者が個々のペースで日常がその人らしく過ごせるように日々取り組んでいる。理念は数か所に掲示して申し送り時に唱和するほか、ケアカンファレンスなどで日常のケアと比較しながら振り返り、意義の理解を深めて支援に反映できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の児童センターや小学校との交流や町内会へ参加し地域の行事参加を行い交流を図っている。	現状は感染症予防で実施できないものも多いが、町内会に加入して従来は地域の六月灯や運動会などの行事参加をはじめ、地域の児童センターや小学校とも交流している。ボーイスカウトやボランティア、職場体験学習での来訪のほか、地域の方々の相談への対応や認知症の理解促進のための活動など、地域の方々と積極的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣との限られたものではあるが、児童センターとの交流や町内会の行事参加を経て認知症に対する理解をしていただけるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、町内会、ご家族、通所介護事業所や児童センター、長寿あんしんセンターからの意見や助言を聞き支援の向上に活かしています。	会議は家族や地域住民、民生委員、地域あんしんセンターや児童センターの職員等が参加して開催されている。年2回は隣接の通所介護施設とも合同で実施している。ホームや利用者の現況や行事・事故等の活動報告のほか、地域課題やホームの悩み事、相談事項等に対する意見や情報交換が行われ、得られた助言や提案を職員が共有して、サービス向上や業務の改善に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿あんしんセンターとの連携を図り、運営推進会議などで状況報告や情報交換の場としている。	長寿あんしんセンターからは毎回の運営推進会議で多くの意見や提案ももらっている。また、介護相談員の受入れも行い助言や提案も得ている。市担当とは電話や相互訪問の機会に利用者の暮らしぶりやニーズに関する事、各種の手続き上の相談ごとに助言・対応してもらい、案内される研修会等にも出席して意見や情報の交換を積極的に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月一回身体拘束委員会を開き、入居者様の現状把握と情報の共有をし拘束をしないケアに努めている。	身体拘束委員会を毎月開催して現状を職員が正しく理解できるよう努めている。また、年間の研修計画に沿って高齢者の権利擁護や虐待防止、身体拘束に関する勉強会を通じて職員の理解を深めてより良い支援ができるよう努めている。特に言葉による行動制限や気持ちの押しつけがないように、日々のケアでも繰り返し職員間でも確認している。ホーム近隣の交通量や不審者対応を考慮して正面玄関のみ施錠して安全確保にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や、入浴時のボディチェックを行い外傷の有無等を確認し、虐待が見過ごされないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されていた入居者様の経験をもとに、管理者や研修に参加した職員を中心に情報を共有し、制度への理解を深めるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の契約は、書面を用いて個別に面談を行い十分な理解と納得が得られるようにじかんとかけて丁寧な説明に努めている。また内容の変更の際も同様に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会や電話連絡時、運営推進会議参加の際に意見や要望を引き出せるように努めている。またiPadを用いて家族との意見交換に利用している。	契約時から丁寧な説明を行い利用者や家族と信頼関係を築くように接し、入所後は利用者の気持ちに寄り添い思いの把握に努めている。現状は感染症予防で制約も多いが、家族とは電話やメール、来所時、運営推進会議、行事の際などに、気軽に意見を出してもらえようとする雰囲気作りに努め多くの意見をj得ている。日々の申し送りや毎月の会議・ケアカンファレンス等で全職員が共有して対応を話し合い、家族にも丁寧に報告しながらサービスに具体的に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で定期的に各ユニットリーダーが拾い上げた意見、要望を法人内での会議を経て検討し、運営に反映しています。	管理者は日頃より話しやすい雰囲気作りに努めて職員と接している。法人の責任者とも連携して職員の悩みや勤務状況等を含む業務に関する意見や提案を聞き取り、業務・就業環境の改善やサービス向上につなげている。また、ボーリング大会や花見、忘年会などの法人の懇親会でも職員や職員の家族との連携を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の評価制度を利用し毎年1回個人面談を行い、個人目標を掲げスキルアップに努めている。その際、意見や要望を確認し職場の環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日頃のコミュニケーションや意見交換、グループホーム内部の研修を掲示し積極的な参加を募り、職員個々の力量や実績、努力を理解しスキルアップできるよう努めています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議に他のグループホームと相互参加し意見交換を行い、サービスの質の向上に努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居支援前に先入観を持たずに関係作りのための面談を行い、ご本人ご家族の思いや、不安に思っていることの聞き取り、安心した生活が送れるように工夫し職員間で情報の共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様契約時のご家族、入居者様の環境の変化による不安や思いを聞き、支援への問題の解決に向け支援開始後もご家族と一緒に協力できる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援を開始にするにあたって、ご家族、スタッフでカンファレンスを開き、入居者様にとって安心、満足できる支援は何かを考え、家族の思いも尊重しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ご本人のこれまでの経験や人生観を踏まえて、出来る限り色々な決定は、自己判断して頂き共に支え合う関係を築いていけるように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と入居者様の絆を思い、大切な家族を介護させていただいていることを念頭に置き、行事への参加や面会時の会話、相談を経て、共に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や親戚の方が面会に来やすいような雰囲気づくりに努め、また自宅での写真や品物を飾っていただいています。地域の行事への参加等通じて近隣の方々との関係作りに努めています。	現状は制約も多いが、これまでの生活歴や暮らしぶりを大切に、本人希望の散歩や買い物のほか、地域行事への参加、電話や手紙の取り次ぎ、家族への利用者写真や動画の送付など利用者・家族が安心できるように取り組んでいる。従来は家族や友人・知人の訪問時にはゆったりと過ごせるよう配慮し、墓参りや買い物等も家族と調整して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や、思い（言葉で表現できないことも含む）を把握し、問題解決に努めています。また日常生活やレクレーションを通じて会話が持てるような雰囲気づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出合いを大切にし、退去後もご家族に連絡を取り近況をお聞きし良い関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症によって自分の要望を口にできない方に対しては、入居者様本位に努め、普段の日々の会話の中から希望や不安を汲み取り引き出せるように努めている。	利用開始時の聞き取り情報や、日々の行動や表情、会話を通じて利用者の思いや意向、不安に思うことなどの理解に努めている。内容は申し送りやケアカンファレンス等で話し合い、家族とも情報を共有して協力を得ながら必要な対応を検討し、利用者の思いや希望に沿った支援ができるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活歴や職業歴などの情報を収集し、また得意な事や趣味等もお聞きし、継続して行える環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースを大切に、ご本人の残存機能を活かして本人のペースで出来ることをして頂く支援を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は現状に即しているか、もっと良い方法や真のニーズの追求等についてカンファレンスを開き検討し、日々の気づきも含め、その都度見直しを行っています	利用者や家族の思いや意見、特に本人が意欲を持って取り組めることも確認し、また、主治医や看護師など関係者とも話し合い、職員の意見も反映した介護計画を作成している。日々の様子や変化などは業務日誌やケース記録、カンファレンス記録等に、職員の気づきや工夫も交えて正確に記述している。職員は内容を共有して、毎月のモニタリングやカンファレンスで状況に合わせたより良い支援になるよう見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況や認知症の状況の把握に努め、情報を共有できるように努めている。朝、夕の申し送り時には実践の結果、気づき等を報告し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科、眼科、歯科の訪問診療を受け医療的なニーズにこたえられるように連携を図っている。また訪問マッサージ、ボランティア、散髪等多様な資源を活用しています。		
29		○地域資源との協働 地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童センターや地域の行事に積極的に参加し、閉ざされた空間の生活にならないように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、法人内の医療機関の担当医に月2回訪問診療の他、必要に応じて往診等して頂き情報交換を密に行い医療連携を図っている。	利用前の受診経過は把握され、現在は24時間オンコール対応の母体医療機関をかかりつけ医とし、定期的に往診も受けられる。歯科医や眼科医の往診もあり、専門医の受診は家族にも協力してもらっている。利用者の状況に応じて対応可能なように、法人とホームの看護師で連携して健康管理に努め、家族や医師との情報交換も密に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師や施設の看護師と連携を取り、定期的な受診以外の変化時、緊急時はすぐに報告し指示に従っている。指導を得て職員の意識や知識の向上に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は主治医、看護師、ケアマネジャーからの紹介状やサマリーにて情報の提供を行い早期治療が行えるようにしている。またご家族、主治医と連携を取りながら退院がスムーズに行えるように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の重症化の際は、看取りに関する方針を契約時に説明し同意を得ている。必要時は家族の意向を確認し主治医と連携し全体で支援できるよう努め、職員間でも研修やカンファレンスを行い支援に努めています。	重度化や看取りに対する指針を定め、契約時に利用者と家族に説明し同意を得ている。様々な変化の都度家族と十分に話し合い、その意向を最大限大切に考えて医師や看護師との連携を密にして、緊急時には必要な支援を実施できる体制整備をして家族との信頼関係を築けるように取り組んでいる。看取りの事例もあり、マニュアル整備のほか関連する研修も定期的実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行い、施設の看護師から緊急時や初期手当の指導を日常的に受け実践できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急マニュアルは常時職員が見える場所に置き、年2回の消防訓練、災害訓練を消防署の協力の下に行い、家族地域の方にも参加頂き、緊急時の対応に備えています。</p>	<p>年2回消防署や地域住民・家族の協力を得ながら、夜間想定も含めた消火・通報・避難訓練を行っている。また、避難場所も設定するなど職員の災害対策への意識も高めている。スプリンクラーや自動通報装置・自家発電等の設置や定期点検、食料・飲料水の備蓄も問題はなく、法人内の関連施設の職員や地域住民等との緊急時対応の連携も図られ、関連する救命講習や研修も実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、倫理観に関する内部研修を行い、人格の尊重、尊厳、プライバシーや個人情報を学び、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っています。	利用者の人格を尊重し、日常のケアに際して尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように、外部研修や勉強会等を通じて方法を共有して支援に取り組んでいる。日頃より言葉遣いを含めて利用者とのコミュニケーションを大切にして思いや希望の把握に努め、個人記録や居室の保護にも十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により現状把握のできない入居者様には、なるべく自己決定ができるように状況説明を丁寧に行い、また日々の会話の中で本人の希望や思いを理解するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いや、その方のペースを大切にし、職員側の考えや主観にならないよう入居者様が心地よく出来ることをして頂くことを重視した支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整髪や、髭剃りは、出来る限り本人の力で行える環境を整えている。また自己決定の難しい方も声掛けを工夫したりしながらその方の思いを大切に支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は楽しい雰囲気になるように職員と共に行っている。また月1回給食会議を開き、メニューに取り入れている。また入居者様の可能な範囲で準備や片付けを職員と行っています。	毎月給食会議を行い、美味しく、楽しく食べてもらえるように旬の食材も活用しながら利用者の好みも献立に反映させ、とろみやきざみ食等の工夫も行っている。食卓の準備や後片づけ等できることも一緒に行い、季節の行事食や誕生会・敬老会・クリスマス会等の特別食、弁当持参の花見、手作りのおやつなど、多くの工夫で楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録に残し申し送りにて各自の摂取量を把握し支援しています。またポカリスエットや補助食品を利用し、水分、栄養の補給を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回食事後は口腔ケアを行い、義歯の洗浄や口の中の異変の観察に努めています。また訪問歯科との連携体制も整えています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人からの訴えや、排泄チェック表を参考に排泄パターンを把握し声掛けを行い、可能な限りトイレでの排泄を支援しています。	職員は日常のケアに際して連携して見守りに努め、排泄チェック表も活用して利用者個々のリズムを把握し、誘導や声掛けを工夫しながら可能な限りトイレで排泄できるように支援している。個々に合わせた排泄用品等の使い分けや皮膚トラブルへの配慮などもプランに組み込み、支援の際にはプライバシーの確保には十分に配慮して羞恥心や不安の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるように排泄パターンの観察、必要に応じて下剤の調整等担当医、連携看護師の指導のもと行っています。また適度な運動、水分補給を心がけ支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1週間に二回の入浴日を決めているが、入居者様に沿って柔軟な対応をしています。また入浴を重要なコミュニケーションの場としてゆっくりしていただけるようにしています。	入浴は利用者との大切なコミュニケーションの場であり、利用者の健康状態や安全に配慮し、シャワー浴や清拭への変更を含め、会話しながら入浴をゆったりと安心して楽しめるように支援している。入浴順番や時間帯、入浴剤など本人の好みや習慣も把握に努めている。入浴時のボディチェックや皮膚ケアにも十分配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調等の状況に応じての声掛けを行い、就寝や休息のパターンを考慮しながら寝たきりにならないように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の受診後の処方箋確認を申し送りにて内容把握しています。また配薬、服薬前、服薬後、空袋のチェック4回行い飲み忘れや誤薬の内容にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人の生活史の中で継続して出来る趣味、残存機能を使って出来るレクリエーションを毎日の生活の中で取り入れたしえんを行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当施設内の庭の散歩や、買い物などご本人の希望に添えるように努めています。また地域の行事への参加にも取り組んでいます	近況は感染症予防で外出は制限が多いが、従来より利用者の健康状態や天候を見ながら、園庭での散歩や外気浴、近隣のスーパー等への買い物などに出かけている。また、近況は感染症予防で実施できていないが、地域の行事や季節の花見、関連施設の行事、初詣など、季節に合わせた外出も年間行事で企画して、可能な限り楽しく外出できるように工夫・支援を行っている。家族の援助のもとでの墓参り、買い物なども勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の金銭管理は預かり金として保管させて頂き、買い物等一緒に行きご本人に品物を選んでいただき購入して頂く支援をしています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族からの電話の際には、本人におつなぎしている。ご本人より希望のある場合は、職員よりご家族へ連絡しその旨をお伝えし、会話や面会が出来る環境づくりに努めています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた壁面の飾りつけ等行いフロア内に掲示している。また行事等で撮影した写真を掲示することでご本人自ら振り返りができるような環境づくりに努めています。</p>	<p>リビングは明るく開放的で、周囲の壁には季節感のある手作りの作品や行事の写真などが飾られ、ソファ・テーブル・椅子が配置されて静かにゆったりと過ごせるように工夫されている。清潔感や空調には細かい配慮が感じられ、利用者にとって不快に感じる音や匂いもなく気持ちよく過ごせる環境である。現状は感染症予防で外出制限があり、ボールや風船遊び、歌や体操、お手玉・積み木・ぬり絵・折り紙、花火大会の録画観賞など職員が工夫したレクリエーションが行われている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間の中で計算問題や色塗りパズル等に集中している方がおられたり、お喋りをされたり各自自由に過ごされている。また居室で過ごされる方もおられ今後も支援を続けていく。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時の居室づくりをする際から、ご本人様の使い勝手を考慮し衣類や道具など、取り扱いしやすいようにしている。家族の写真などは目のつきやすいようにしています。</p>	<p>家庭に近い雰囲気、本人のペースで日々居心地よく過ごせるように、また、使いやすいように身の回りの小物・テレビ・位牌・仏壇・写真・寝具などを持ち込んでもらい、家族とも協力しながら部屋の環境づくりを工夫している。居室は明るく、ホームからはベッド・ダンス・エアコンが設置されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の入居者様の残存機能、出来ることをしたいという気持ちを尊重し、見守りと支援を行っています。転倒防止を含むリスク管理に充分注意しながら安全確保に努めます。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない